

— 対談 —

# 地域に、人に寄り添う 企業をめざして



矢崎総業株式会社 代表取締役会長  
矢崎 裕彦



認定NPO法人ACE 代表  
岩附 由香 様

社会課題が多様化・複雑化するなか、その課題は地域社会により異なります。グローバルに事業を展開する矢崎グループとして、今後注視すべき社会課題について、主に児童労働<sup>\*</sup>の撲滅に取り組む認定NPO法人ACEの岩附代表を迎え、矢崎グループ代表取締役会長・矢崎裕彦が対談しました。

※児童労働とは、法律で定められた就業最低年齢を下回る年齢の児童（就業最低年齢は原則15歳、健康・安全・道徳を損なう恐れのある労働については18歳）によって行われる労働。児童労働は、子どもに身体的、精神的、社会的または道徳的な悪影響を及ぼし、教育の機会を阻害する。（出典：ILO駐日事務所WEBサイト）

**矢崎** 矢崎グループは社是を軸に、地域社会とともに発展したいという想いで事業活動を進めてきました。そして、この想いを継承していくのは、「人」そのものであるという考えに基づき、私たちは人づくりの追求を続け、とくに若いうちに異文化や多様性を肌で感じることで、自分の利益だけでなく相手や社会のことを考える力を育てたい、と願ってきました。これを具現化した活動のひとつに、従業員の子を対象とした「矢崎サマーキャンプ」があります（39ページ参照）。一方で、外に目を向けると2016年時点で世界の子どもの10人に1人、約1億5,200万人が児童労働をしているという実態があることを知り、非常に心が痛みました。サマーキャンプに参加する子どもたちが、いかに恵まれた環境にあるのかがわかります。

**岩附** 私はこれまで十分教育を受け、いろんな機会を与えられてきましたが、世界にはそうじゃない人たちがたくさんいるという事実に触れ、なんて不平等で、なんとかならないかなという想いにいたったことが児童労働について考え始めたきっかけです。1997年からACEとして児童労働の撲滅に向け活動を始めていますが、世界にはまだまだ働いている子どもたちが数多くいます。

**矢崎** 矢崎グループの進出先にはアジア、アフリカの途上国と言われる国も少なくなく、私たちにとっても決して他人事ではない問題です。児童労働の要因は、こういったところにあるのでしょうか。

**岩附** 子どもたちが働く理由はさまざまで、家庭が貧しいという理由はもちろんですが、国によっては、親も学校へ行ったことがなく、行く意味がわからないとか、女の子は教育を受けなくてもよいといった、地域の慣習や家庭の考え方も児童労働を生み出している一因になっています。子ども自身が学校に行く意味がわからないと、じゃあ働こうかな、ということになり、結果として児童労働に繋がっていくこともありますね。

**矢崎** なるほど。学校に行くという認識すらない、学校を知らない、という場合もあるのですね。少し話がそれますが、サマーキャンプや森のようちえん<sup>※</sup>の活動を通じて感じたことは、子どもたちだけで遊ばせたり、ルールを考えさせたりすると本当に素晴らしい力を発揮するということです。

※森のようちえんとは、自然体験活動を基軸にした子育て・保育、乳児・幼少期教育の総称。(出典：NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟)

**岩附** 子どもたち自身の考え方を尊重するのは大切なことですよ。私たちも一度、プロジェクトを行っているガーナから子どもを招待したことがありました。その時は、誰が日本に行くのかを自分たちで決めてもらいました。すべての子どもが日本へ行きたいなかで、ちゃんと話せる子がいいとか、カカオ畑で働いていたことがある子がいいとか、基準を自分たちで決めて選んで。やっぱり、子どもにも決める力があるんですよ。

**矢崎** それ自体が勉強になりますよね。そこに大人が介入すると、どうしても大人の意思が入ってしまう。反対に、子どもの健全な成長のために大人が教えてあげるべきこともある。児童労働の例でも、大人の関与の仕方は子どもに大きな影響を与えますね。

**岩附** 子どもがもつ、自分の意見を表明する権利、教育を受ける権利、危険有害な労働から守られる権利など、児童労働はこのさまざまな子どもの権利の側面にかかわる問題です。

**矢崎** 児童労働は、多くの従業員、大きなサプライチェーンをもつ矢崎グループにとっても、決して目をそらすことができない課題です。矢崎グループもサプライチェーンを通じてそのようなことが起こらないように、リスク低減の観点で取り組みは行っておりますが、この課題の背景を知ること、改めて取り組みの重要性を知ることができました。NPOのお立場から矢崎グループが児童労働の撲滅にむけて配慮すべきこと、企業へ期待することをお聞かせください。

**岩附** 自社だけでなくサプライチェーンのなかで働いている人たちの権利がきちんと守られているか、どういうリスクがあるのか、ということを事前に把握し、リスクがあれば確認する、手当てをする、いわゆる人権デュー・ディリジェンスについて重要度が高まっています。矢崎グループは世界各地に拠点があり、部品や材料を世界中の取引先から調達しグローバルなサプライチェーンをお持ちです。したがって、引き続き地域に密着し、寄り添いながら事業を運営していくことはもちろん、サプライチェーンのどこかにリスクが潜んでいる可能性があることを認識し、直接的な取引先だけでなくその先まで児童労働などのリスクチェックを進めていただきたいと思います。

**矢崎** すでに取り組み始めている部分はありますが、本日岩附さんからお話を伺い、もう一步踏み込んだ積極的な取り組みが必要であると感じました。

**岩附** 加えて、貴社の取り組みを知るなかで、会社が地域の方々と一緒になって新しいビジネスを考えるという、ボトムアップ的な文化があることと、人を大切にする会社であることが相乗効果を生んでいる、と感じました。こういったことはぜひ続けていただけるように願っています。ACEの活動でも地域に寄り添うことが不可欠だと考えています。例えば、児童労働が問題とされている地域では、子どもたち自身が働くことで家族を経済的に支えたいと考えていることも多く、学校から足が遠退いているケースもあります。言葉で教育の重要性を説得するばかりでなく、生計を立てる方法を一緒に考え、生活を軌道に乗せる支援をすることも私たちは重要だと考えています。

**矢崎** 岩附さんのお考えは、地域の課題やニーズをよく理解し、私たちに何ができるかをまず考えるという矢崎グループの考えに共通しているのではないかと感じました。これからも地域に寄り添い、地域とともに発展したいという思いをもって、児童労働といった社会や地域の課題解決に積極的にかかわり、地域とともに持続的な発展をめざしてまいります。本日はありがとうございました。

## Profile

### 認定NPO法人ACE 代表 岩附 由香

上智大学在学中、米国留学から帰国途中に寄ったメキシコで物乞いする子どもに出会い、児童労働と教育を研究テーマに大阪大学大学院へ進学、国際公共政策修士号取得。在学中にカイラシュ・サティヤルティ氏(2014年ノーベル平和賞受賞)の呼びかけた「児童労働に反対するグローバルマーチ」をきっかけにACEを発足させる。ACEでは、SDGsと児童労働、ビジネスと人権等、日本国内およびグローバルなアドボカシー(政策提言)に力を入れる。